「国際交流事業」

「ヒゴタイ高校生体験交流事業」
（文部科学省委託事業）

［主　　催］国立阿蘇青少年交流の家

［協　　賛］エムエフエス株式会社　南九州ビバレッジサービス株式会社

［期　　間］平成23年10月21日（金）～30日（日）　9泊10日

［実施場所］国立阿蘇青少年交流の家，他

［参 加 者］タイ高校生25名　引率者3名
日本高校生18名（延べ）〈熊本の高校生ボランティアサークル「スマイルステーション」〉

［企画推進委員会委員］

熊本市国際交流振興事業団　事務局長	八木　浩光 氏
熊本大学教育学部　准教授	松永　拓己 氏
熊本県立阿蘇高等学校・阿蘇中央高等学校　校長	上川　幸俊 氏
熊本県立阿蘇清峰高等学校　校長	福嶋　　茂 氏

［講　　師］

阿蘇火山博物館　館長	池辺伸一郎 氏
九州バイオマスフォーラム	藤田　幸代 氏
九州バイオマスフォーラム	吉田　園子 氏
紙すきボランティア	松本以智子 氏
紙すきボランティア	時田　道子 氏

［協力団体］ホストファミリー18組，熊本市国際交流振興事業団，
熊本大学教育学部美術科松永研究室，阿蘇市，阿蘇神社，
阿蘇高等学校・阿蘇中央高等学校，阿蘇清峰高等学校，
鹿本農業高等学校郷土芸能伝承部，秀岳館高等学校和太鼓部
野の花の宿「阿蘇の四季」，ディスカバリーくまもとボランティアの会
HONDA熊本製作所，サントリー九州熊本工場，かんぽの宿

1　趣　旨

東アジアを中心とした海外の青少年を招き，青少年教育施設を中心に地域の関係機関と連携し，地域の特性を生かした自然体験・文化体験等の機会を提供することにより，日本に対する理解の増進を図る。また，招いた青少年との交流をとおして，日本の青少年の国際的視野を醸成し，東アジアの中核を担う次世代のリーダーを養成する。

2　目　標

⑴　タイ国の青少年の日本に対する理解を増進する。

⑵　日本の青少年の国際的視野を醸成し，次世代リーダーを養成する。

3　事業展開

(1)　研修プログラム

日	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	宿泊
1日目	8：00 福岡空港着		バス移動 福岡空港～阿蘇				昼食 （日本食体験）	阿蘇市 表敬訪問	★文化体験 阿蘇神社見学 水基巡り		オリエンテーション 休憩		ウェルカム 夕食 パーティー	入浴		就寝 準備	交流の家泊
2日目	起床 洗面 / つどい 朝　食 身支度			★文化・交流体験 阿蘇高等学校・ 阿蘇中央高等学校 文化祭・交流		昼食 休憩・準備		★交流体験 交流・意見交換会 （スマイルステーション）			対面式	★ホームステイ体験 ホームステイプログラム					ホームステイ
3日目	★ホームステイ体験 ホームステイプログラム （国立阿蘇青少年交流の家施設開放事業「交流の家はみんなの広場」参加）																ホームステイ
4日目	起床・洗面 身支度・登校		★学校生活体験 調理実習・ものづくり体験・乗馬体験など （阿蘇清峰高等学校）								移動 ・ 休憩	入浴・ 夕食（バイキング）		タイ学生 （自由活動） ・ スタッフ （評価会議）		就寝 準備	交流の家泊
5日目	起床・洗面 身支度・登校		★学校生活体験 授業体験・調理実習・華道体験など （阿蘇高等学校・阿蘇中央高等学校）							移動 ・ 休憩	つどい・入浴・ 夕食（バイキング）			報告会準備 ・自由活動		就寝 準備	交流の家泊
6日目	起床 洗面 / つどい 朝　食 身支度		★自然体験 〈阿蘇ジオツアー〉 • 火山博物館　• 火口見学　• 草千里　※昼食：弁当					• 草原環境学習 • 紙すき体験			つどい・入浴・ 夕食（バイキング）			報告会準備 ・自由活動		就寝 準備	交流の家泊
7日目	起床 洗面 / つどい 朝　食 身支度		★文化体験 〈工場見学〉 • サントリー工場　• 水前寺公園　• 本田技研　• かんぽの宿スパ体験									夕食 （特別メニュー） ・休憩		タイ学生 （自由活動） ・ スタッフ （評価会議）		就寝 準備	交流の家泊
8日目	起床 洗面 / 朝　食 身支度		★歴史・文化体験 〈歴史・文化施設見学ツアー〉 • 熊本城見学　※昼食：熊本大学学生食堂				• 墨絵体験 （うちわ絵入れ・大型墨絵づくり） • 学生との意見交換会				ホテルへの移動・ 夕食・入浴			ミーティング （報告会 発表練習）		就寝 準備	（熊本市） チサンホテル泊
9日目	起床 洗面 / 朝　食 身支度		ホテル（バス）～ 新玉名駅～ （新幹線）～博多駅		★文化体験 • 博多駅周辺　• 博多町並み • ショッピング　※昼食：外食				地下鉄での移動		評価委員会 及び報告会		さよなら 夕食 パーティー	荷物整理等		就寝 準備	（福岡市） リーセントホテル泊
10日目	起床 洗面 / 朝　食 身支度		バス 移動	出国手続き		11：40 福岡空港発											

(2)　目標達成のための工夫

①　企画推進委員会の設置

本事業を円滑に運営し，事業の充実を図るため，地元高等学校や日本伝統文化（墨絵）の指導をされている先生方，国際交流の専門家を招聘し，企画推進委員会を組織した。

回	開催期日	主　な　内　容
1	9月9日	「ヒゴタイ高校生体験交流事業」プログラム開発・安全管理体制等について
2	11月30日	事業報告・アンケート結果等にからの事業の成果と課題・次年度にむけて

②　阿蘇・熊本の特性を生かし，関係機関等と連携したプログラムの開発

ア　学校生活体験

地元の阿蘇高校・阿蘇中央高校と阿蘇清峰高校のご協力を得て，実施した。両校において，授業参加・郷土調理実習・華道体験・乗馬体験・ピザ作り体験など，それぞれの学校の特色を生かしたプログラムを計画した。

乗馬体験

華道体験

イ　ホームステイ体験

　阿蘇市と産山村の方々のご協力を得て，２泊３日のホームステイ体験を実施した。（ホストファミリーとゆっくり過ごすことができるよう，日曜日を入れて実施した。）このホームステイ体験をとおして，日本の生活習慣や言葉などを多く学ぶことができた。

ウ　文化体験

　地元高校の文化祭に参加しての日本伝統文化である茶道体験や，熊本大学教育学部松永先生のご指導による墨絵体験を実施した。墨絵体験では，教えていただいた様々な技法を使いながら，うちわに絵を描いたり，大型墨絵を作成したりした。

　また，タイとの関係も非常に深い「HONDA熊本製作所」や環境問題に積極的に取り組んでいる「サントリー九州熊本工場」の産業学習を行った。両工場において，タイの生徒が積極的に質問をしている姿が多く見られた。

墨絵体験

茶道体験

エ　環境学習

　阿蘇の大自然を生かした阿蘇自然環境学習を実施した。火山環境学習では，阿蘇火山博物館館長池辺先生を講師に，中岳火口から草千里をハイキングしながら，世界に誇る阿蘇のカルデラ等について学んだ。草原環境学習では，九州バイオマスフォーラムの方々に，草原再生について紙芝居を使いながら説明や阿蘇のすすき等を使っての紙すきのご指導をいただいた。

ハイキング（火口～草千里）

紙すき体験

オ　交流体験

　お互いの交流のきっかけづくり，そして国際的視野の醸成のため，高校生ボランティアサークル「スマイルステーション」の生徒とタイの高校生との意見交換会を，２つのテーマを設定して実施した。

〈テーマ〉

★お互いのふるさとのよさを伝えよう！

★震災復興支援プログラムを開発しよう！

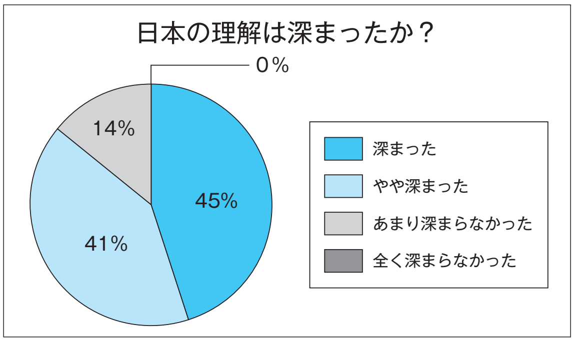
意見交換会

　また，お互いの交流を深めるため，熊本城見学を一緒に行った。タイの高校生は日本文化に関心が非常に高く，ガイドの方に積極的に質問していた。また，日本の高校生からも改めて日本文化の素晴らしさを感じたという意見があった。

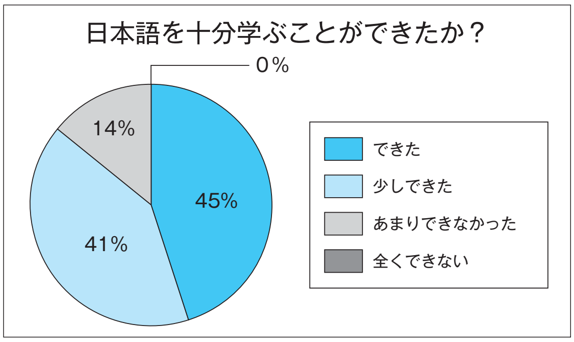
4　結　果

アンケートの結果は次のとおりである。

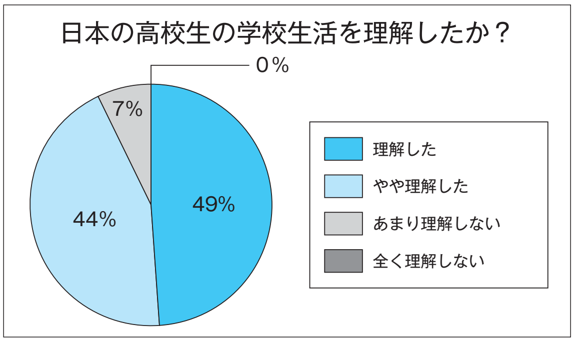
〈タイの高校生へのアンケート〉



○ホームステイ体験から，挨拶や食事の仕方，お風呂やトイレの使い方など，日本の生活習慣について学ぶことができた。
○日本の高校生との意見交換会等によって，日本の高校生の考え方が分かり，交流を深めることができた。
●阿蘇山や熊本城など，日本の歴史文化学習の時間がもう少し欲しかった。



○ホームステイ体験をとおして，日本語を話すことが少しずつ上手になった。
○日本の高校生と交流し，新しい言葉をたくさん覚えることができた。
●もっと時間があれば，日本語を十分学べたと思う。
●プログラムのなかで，日本人の説明を聞くとき，通訳の方がいたので助かったが，頼りすぎるところがあった。



○日本の高校の授業を直に経験でき，授業の様子が理解できた。みんなまじめだった。
○日本の文化祭に参加して，学校の楽しい様子が分かった。なかなかできない乗馬体験や華道体験できたことが，いい経験となった。
○掃除時間があったり，チャイムで行動したりなどのきまりが多かったが，いいことだと思った。
●難しい勉強もあったけど，日本の高校生と，もっと何科目も勉強したかった。

※タイに帰ってからやってみたいこと等

- ゴミの分類
- 時間を守る。
- 日本語の先生になりたい。
- 日本語をもっと勉強したい。
- 日本の友だちに連絡する。
- 生け花をしたい。
- タイにもいい技術がほしい。
- 森を守りたい。
- 掃除をする。
- 日本の大学に入りたい。
- 友だちに折り紙を教えたい。
- タイの友だちに，日本の文化を話す。
- 筆を使いたい。
- タイ人の規律があってほしい。

〈日本の高校生へのアンケート〉

○意見交換会をとおして，国を超えて，ひとつのことを考え，まとめることの達成感を得た。
○初めはコミュニケーションをうまくとれるか心配だったけど，タイのみんなが気軽に話しかけてくれたので，趣味などについてたくさんの話をすることができた。
○東日本大震災援助プログラムを考えるとき，内容を深めることができ，グループ内で意見が飛び交っていたのでよかった。
○タイの高校生はフレンドリーで，笑顔が素敵だった。
○日本とタイとの文化や生活様式，環境などの違いを，直接会話をするなかで，知ることができた。
○今回の活動に参加して，タイの高校生が，日本のことについて知っていることは素晴らしいと思った。日本の高校生は，タイについてあまり知らなかったので，会話をしながら，いろいろなことを知っていった。
○今回の活動をとおして，外国の人ともっと交流したいと思った。
○ヒゴタイ高校生体験交流事業は，外国人との交流という素晴らしい体験ができ，それを存分に楽しんだ。機会があれば，ぜひもう一度参加したい。
○異文化を理解するよい機会となった。それと同時に，日本について改めて考えることができた。

5　成果と課題

⑴　成　果

①　環境保全に関するプログラムは，タイ国の環境について考える機会になり，タイの高校生にとって，今後の次世代リーダーとしての意識を高めるよいきっかけとなった。

②　日タイの高校生同士の意見交換会等によって，友好関係を深めることができ，タイの高校生の帰国後も，大洪水に対する励ましのメールを送っていた。本事業において，日本の高校生の国際的視野を広げることができ，更に今後の継続的なつながりが期待できる。

③　本事業は，熊本市国際交流振興事業団・熊本大学・地元高等学校・ＰＴＡ・阿蘇市・産山村・ＮＰＯ団体等，多くの方々のご協力によって，実施できたものである。来年度にむけて，更なる連携をし，より効果的な国際交流事業のプログラム開発に努めたい。

⑵　課　題

①　参加者が安全に余裕をもって行動でき，更に，環境問題や歴史文化に関する学習をじっくりできるプログラムの開発に努める。

②　地域や地元学校，関係機関等との更なる連携を図り，目的達成のためのより効果的なプログラム開発に努める。

企画指導専門職　小薗　正臣